

## 報告書抄録

ふりがな	しまいせき								
書名	島遺跡								
シリーズ名	長命寺川支流補助通常砂防（総流防）工事に伴う発掘調査報告書								
編著者名	辻川 哲朗								
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課			公益財団法人滋賀県文化財保護協会					
所在地	大津市京町四丁目1番1号			大津市瀬田南大萱町1732番2号					
発行年月日	平成28年（2016年）3月								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積		調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経				
しまいせき 島遺跡	しげけん 滋賀県 おうみほちまんし 近江八幡市 しまちよう 島町	252042	204-036	35° 10' 37"	136° 05' 08"	20120420 ～ 20120514	40㎡	3914㎡	長命寺川支流 補助通常砂防 （総流防）工事
						20120614 ～ 20121109	3087㎡		
						20131218 ～ 20140221	442㎡		
						20140606 ～ 20140620	355㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
島遺跡	—	古墳時代	—	土師器					
	—	古墳時代後期	—	須恵器・土師器	山口古墳群の破壊古墳 に由来する可能性あり。				
	集落	古代（奈良時代）	—	須恵器・土師器・ 土錘					
	畑地	近世	平坦面・石積遺 構・祭祀遺構等	陶磁器・土師皿・ 銅銭等					
	山林	近現代	—	陶磁器・瓦・ ガラス瓶等					
要 旨	<p>島遺跡は琵琶湖岸の独立丘陵—奥島山南麓斜面に位置する遺跡である。今回の発掘調査の結果、古墳時代から近代にいたる間の土地利用の変遷を明らかにすることができた。</p> <p>今回の調査対象地とその周辺での土地利用は以下の5つの段階に区分できる。</p> <p>【古墳時代前期】調査対象地で確認しうる最古の段階であるけれども、わずかな遺物の出土のみであり活動の具体的様相を把握するにはいたっていない。</p> <p>【古墳時代後期】確実に活動痕跡を見いだせるのは、後期群集墳—山口古墳群の造営である。調査の結果、当該期の遺物が広範囲において散発的に出土することから、現状で確認できる基数よりもさらに造墓数が増加する可能性があり、その造墓時期が少なくともTK10～TK209型式期に及ぶ可能性があることが明らかとなった。</p> <p>【古代】遺構は未検出ながら、7世紀末～8世紀前葉頃の土器類の出土をみた。出土傾向等から現集落付近に当該段階の集落を想定した。また、集落の立地は内湖間連絡水路を見下ろす位置にあり、一般集落とは異なる要素と評価しうる圈脚円面硯の出土を加味すると、水路を往来する船舶の管理機能を有する集落と性格づけた。さらに、刺網系漁網錘の出土から、専門的漁民の居住も想定した。</p> <p>【近世】続いて18世紀後半頃に、平坦面群が造成された。検討の結果、これらの平坦面は一部に宅地を含むものの、大半は畑地であるとみた。さらに、平坦面造成後、岩の周辺で「祭祀」が実施されているが、それらが岩を対象とし、宅地と山林との境界で実修された「祭祀」であると推定した。</p> <p>【近代】その後少なくとも1960年代には植林がなされ、調査前の現状に近い景観となったと想定した。</p>								